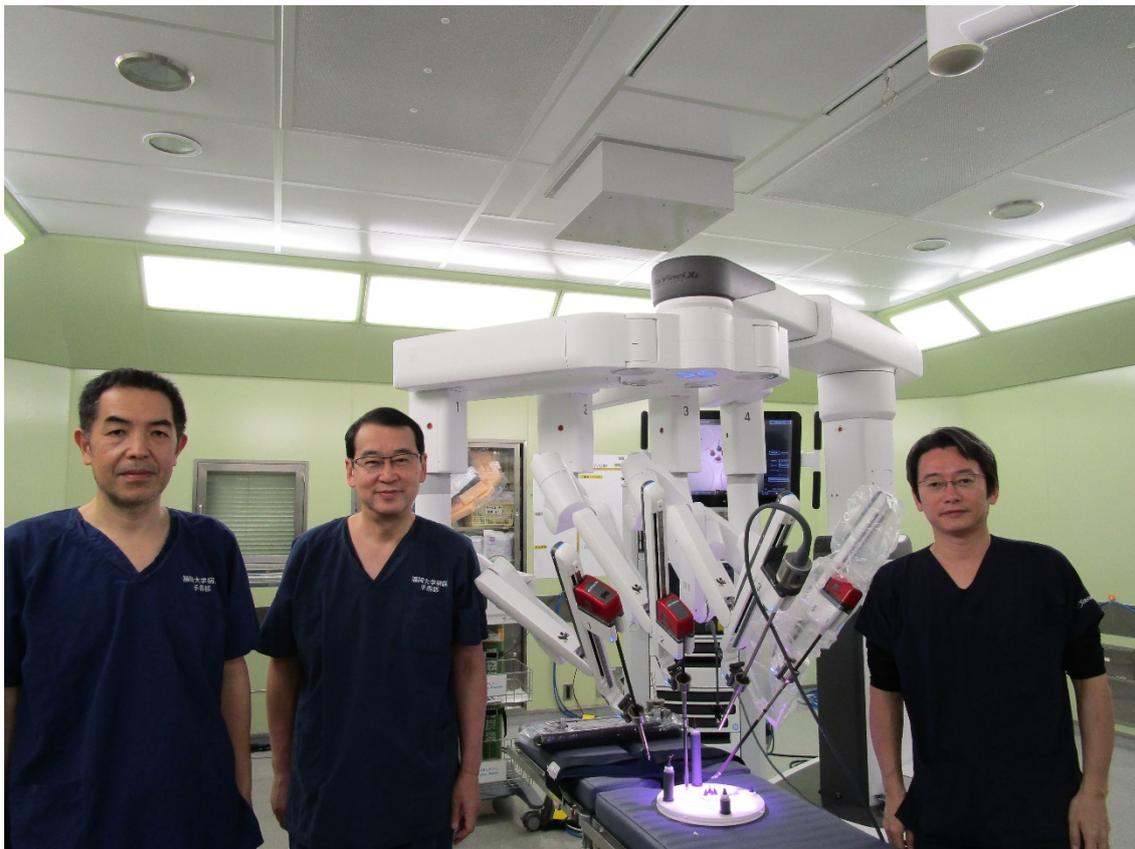


内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入しました。



ダヴィンチを使用する患者様のメリット

悪性腫瘍

ロボット支援下による子宮体がん手術は腹腔鏡手術をロボット支援下におこなうもので、今までの腹腔鏡手術の利点をさらに向上させることができると考えられています。ロボット支援下で手術操作をおこなうことで、複雑で細やかな手術手技が可能となります。また高画質の 3 次元画像により正確な手術を行うことが可能となります。より安全かつ正確、繊細な手術が可能となり、次世代の医療改革の一端を担った分野と考えられています。

この手術支援ロボットは、欧米を中心にすでに医療用具として認可され、1997 年より臨床

応用されています。日本国内においても、2009年11月に本機器が厚生労働省により薬事承認されました。ロボット支援による子宮体がん手術は、韓国、日本を中心に行われており、2018年4月からは本邦でも保険適用となりました。なお、ロボット支援による子宮体がん手術は、現在、標準的に行われている腹腔鏡手術をロボット支援下に行うものですが、従来の腹腔鏡手術に比べてより繊細で、正確な手術を行うことができ、開腹手術への移行がすくなく、根治性、リンパ節郭清においてより優れていると考えられています。

良性腫瘍

現在は、子宮筋腫や子宮腺筋症の腹腔鏡下手術や内視鏡下支援ロボットが保険適応となっており、施設によっては条件が満たせばより低侵襲な手術も可能となっています。

近年、子宮筋腫などの良性疾患に加えて、悪性疾患である子宮がん(子宮体がんや子宮頸がん)に対しても、腹腔鏡手術が行われる機会が増えてきました。腹腔鏡手術は従来の開腹手術と比べて、体に加わる負担が少ない(体に優しい)と考えられています。腹腔鏡手術の利点は、傷が小さいことによる術後の痛みの軽減、より早い術後の回復、より短い入院期間、そして美容上の美しさなどが挙げられます。ロボット支援下による**腔式子宮全摘術**は腹腔鏡手術をロボット支援下におこなうもので、今までの腹腔鏡手術の利点をさらに向上させることができると考えられています。ロボット支援下で手術操作をおこなうことで、複雑で細やかな手術手技が可能となります。また高画質の3次元画像により正確な手術を行うことが可能となります。より安全かつ正確、繊細な手術が可能となり、次

世代の医療改革の一端を担った分野と考えられています。

この手術支援ロボットは、欧米を中心にすでに医療用具として認可され、1997年より臨床応用されています。日本国内においても、2009年11月に本機器が厚生労働省により薬事承認されました。ロボット支援による腔式子宮全摘術は、韓国、日本を中心に行われており、2018年4月からは本邦でも保険適用となりました。なお、ロボット支援による腔式子宮全摘術は、現在、標準的に行われている腹腔鏡手術をロボット支援下に行うものですが、従来の腹腔鏡手術に比べてより繊細で、正確な手術を行うことができ、開腹手術への移行がすくなく優れていると考えられています。